

# 資料・史料を読むことの大切さ

## ——日中の領土をめぐる問題を読み解く——

国際教養コース 荒武達朗（専門：○中国近現代史 ×中国語）

### はじめに：今回の授業の目的

○第1回～3回の授業（山口先生担当分）で学んだこと

○今回の授業の目的：

以上の実践事例。「日中間の領土をめぐる問題」を題材に歴史学的手法で議論

○対立する日中両国の見解（資料1，2参照、**資料は当日配布**）

中国：古来、歴史的に中国のもの

⇔ 日本：尖閣諸島は**無主地**であった。

日本は1894-95年の**日清戦争で奪取**

中国の領有権が及ばぬ事を確認  
正当な手続きで領有

1894-95年の**日清戦争とは無関係**

→それぞれが根拠とする史料をもとに議論をすすめる。



## I 中国の主張「尖閣諸島は古来、中国に属していた」の問題点（資料1）

根拠①：中国から琉球へ帰る人びとは久米島を見て、「琉球の領土だ」と喜んだ。

※故に、久米島より西は中国である。

資料：中国から琉球へ向かう使節の残した記録から。

陳侃（チンカン）『使琉球録』1534年

「5月11日、古米山（久米島）が見えた。つまり琉球の領土で、琉球の人たちは、船で小太鼓を打ち、踊りをおどって、自分の国に帰れたことをよろこんだ。」

夏子陽『使琉球録』1606年

「5月29日粘米山（久米島）があらわれてきた。琉球人はよろこぶことはなはだしく、やっと家へかえったかのようにだった。」

出所：原田禹雄『尖閣諸島：冊封琉球使録を読む』榕樹書林、2006年。

↓ これらの資料から何が読み取れるか。

↓ この見解への反論：『東瀛百詠』（とうえいひやくえい・資料3参照）の描く境界

根拠②：中国の地図『籌海図編』1561年（ちゅうかいずへん・資料4参照）は海上防衛の範囲を示す。その中に釣魚台（尖閣諸島）が描かれている。

※故に尖閣諸島は中国に属する。

資料：資料4（当日配布）を見よ。

↓ この見解への反論

## Ⅱ 日本の主張「我々は無主地を領有。日清戦争は無関係」の問題点（資料2）

根拠及び資料：日本のアジア歴史資料センターは根拠となる公文書を公開している。これに基づき領有過程をたどる。

○1885年（明治18年）大東島領土編入

○1885年（明治18年）尖閣諸島領土編入の棚上げ……この違いは何か？

9月21日 沖縄県へ調査報告提出（資料5）

9月22日 沖縄県より内務卿（内務大臣）へ報告（資料6）

10月9日 内務卿（内務大臣）から外務卿（外務大臣）へ問い合わせ（資料7）

★10月 外務省内部での議論（資料8を見よ）

★10月21日 外務卿（外務大臣）から内務卿（内務大臣）へ返信（資料9）

○それから10年①：1894年5月12日の認識……沖縄県の報告（資料10）

○それから10年②：1894年末（12月27日）の認識……内務大臣→外務大臣（資料11）

○1895年1月12日 領有を決定→領有

○問題点は何か？

おわりに